

Otto Bock®

QUALITY FOR LIFE

〒108-0023 東京都港区芝浦4-4-44 横河ビル8F TEL. 03-3798-2111(代表) FAX. 03-3798-2112



暑さがひとしお厳しい今年の夏、熱中症が多発するなど体調を崩す方も多いようですが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？ 残暑お見舞いもかね、実りの秋に向って皆様の活力が活性化されますことを祈りつつ、オットーボック・ニュース9月号をお届けいたします。

7月17日(土)、18日(日)の2日間、暑い夏のはじまりと共に“第17回日本義肢装具士協会学術大会”が開催されました。「特別講演」「マニファクチャラーズ・ワークショップ」および「商業展示」を通してご来場の皆様方とお会いできたことを大変嬉しく感じております。初日の特別講演では、オットーボック アジアパシフィック社長兼 CEO Kevin J Harney を迎え「世界的視点による義肢装具業界の傾向と展望」についてご紹介させていただきました。ここ数年の世界の激動、変動の中で、変わりゆく業界を取り巻く環境や展望の変化についても考える必要があることをひしひしと感じました。本紙面の中で、この特別講演より一部を抜粋し、ご紹介させていただきます。また、商業展示においては、我々を取り巻く環境や疾病の動向に合わせ、DM 疾患にフォーカスした足部やライナー等の新製品をはじめ、装具・車いすを展示致しました。多くの方々にご来場いただきましたことに改めて感謝申し上げます。



代表取締役社長 ハイナー パーペ

## 事故から考える...障害をもつ方々の身体や精神への負担

代表取締役社長 ハイナー パーペ

一ヶ月前に自転車に乗っていて、急ブレーキを掛けた際に転んで左の膝をぶつけるという事故にあいました。幸い重症ではありませんでしたが、その後4週間、腫れと痛みが続きました。特に最初の2週間は歩くことも間々ならず、非常に不自由な思いをしました。興味深いことに、ケガをした足をかばっていたせいで、直接ケガをしていない反対側の脚と腰から痛みだしたのです。普段どおり歩くことができなくなったためか、精神的に不安になったり、イライラしたりするようになり、このフラストレーションから泣き叫びたくなるというような予期せぬ影響ができました。

この個人的なエピソードでお知らせしたかったのは、このような状況になったことにより、義肢・装具や車いすユーザーの方たちが常にこのような制約や制限を受けているということについて改めて深く考えさせられたということです。多くのユーザーの方々は、私のように2-3週間ではなく、もっと長い期間このような状況で生活しなければならないということについて身をもって思い知ることができました。もちろん、ユーザーの方々と同じような生活はほんの少しか経験していないことは良く判っていますが、このような体験を通じ、こうしたユーザーの方々に深い尊敬の念と敬意を払いたいと思います。なぜならユーザーの方は、事故による制約に対して不平ばかり言っていた私とは違い、ブツブツ言ったりすることなく、全てのことについて挑戦しているからです。

私は、実際に障害を持ちながらも、いわゆる「平均的な」人々に比べてより活動的で前向きな方々に会うたびに、どうしてこのようにできるのであろうかと考えました。ユーザーの方々が本当に強い精神と共に活動されていることに対してただただ敬服するばかりです。

この経験を通じ、私どもはこの業界の一員として、我々の製品を必要とするかもしれない全ての人の生活を更に向上させるために精一杯の努力をしなければならないということを改めて強く感じました。

例えば、より良く新しい治療のコンセプトの提案、さらに効果があり簡単に使用できる手頃な価格の機器の製品化など、技術的なソリューションを見つけることによってこのことを継続することができます。このことは、本社と共にオットーボック・ジャパンのチームとしての挑戦です。我々全社員は、業界のパートナーの方たちと一緒に果敢にそれに挑むことを誇りに思っています。そして、皆様がこの挑戦に賛同して、サポートいただけましたら幸と存じます。この精神にもとづき、いつも貴重なご支援をいただいておりますことにお礼申し上げますとともに、皆様のご健康を心よりお祈りしたいと思います。



# 義肢

## 世界的視点による義肢装具業界の傾向と展望

第17回日本義肢装具士協会学術大会(東京)特別講演 抜粋

### “Trends & Developments in the P&O Industry Worldwide”

「世界的視点による義肢装具業界の傾向と展望」 オットーボック アジアパシフィック社長兼CEO Kevin J Harney(CPO)

いくつかのチャレンジとチャンスに直面する義肢装具業界：ここ日本だけでなく、世界中において義肢装具士ならびにその業界はまぎれもなく変化しつつあります。私自身、アジアパシフィック地域やヨーロッパ各地を訪れ、先進国や新興国の社員と話をすることが多々ありますが、実際誰もが今は変革の時期であると感じています。政府によるヘルスケア業界への介入、つまり肥大化している費用負担への対応や、制度・規制・法律の変更、といったことが我々の将来の鍵になっています。

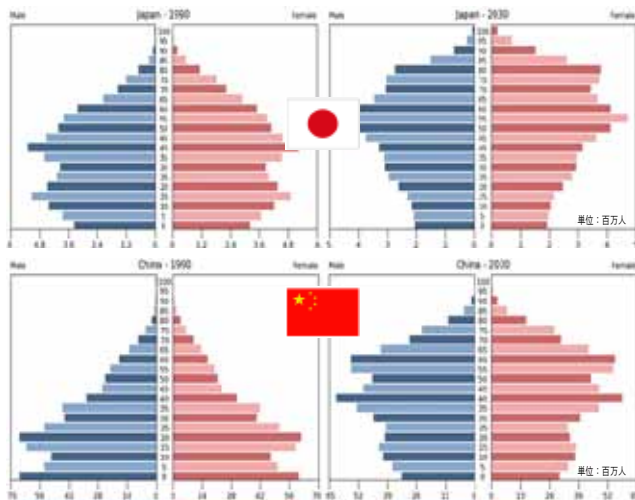


新興国においては、ものを作るというだけでなく、新興国の国民のQOLに着目し始めているということが明確になってきています。ヘルスケアテクノロジーの発展により、私たちはより長生きすることができるようになりましたが、同時に、より良いQOLをもって長生きできるようなヘルスケアというものを考える必要があります。バイオテクノロジーや最先端医療技術や医療機器といったものの導入により、ヘルスケア業界こそが、今後の技術革新の大きな波となると考えられています。

- ・ 製品やサービスの提供に対する、国家による更なる管理、肥大化する費用の抑制（公費支給制度）
- ・ 継続して品質の高いサービスを提供することを実現するための、経済側面からみた業界の再編
- ・ エンドユーザーならびにその家族の希望をかなえることができるサービス提供のための情報提供手段

我々の業界・専門家は、こういった変化を理解し「新しい革新の波」と受け止め、今後我々がさらにステップアップしていくために、身の回りの環境の変化にどのように対応していくかということについて、これまでとは異なった見方を行っていくことが求められています。義肢装具業界は、いかなる経済状況にかかわらず、これらの変更をチャンスと受け止め、最先端のサービスや機器、用具、用品を全世界の障害者や高齢者に提供すべく、新しいテクノロジーの開発を継続して行うことが必要です。

**高齢化：**私はつい最近、105歳の誕生日をお祝いした女性へのインタビューを見る機会がありました。彼女は其中で、「確かに私は長生きしていますが、肉体的な痛みも時とともに増えています」と言っていました。人々は、環境が良くなり、医療技術が進むことによって長生きできるようになりましたが、同時に、病気や年老い



【年齢別、性別人口分布】

ていくという状況に耐えていっているのです。1990年から2030年という比較的短い40年という期間だけをみた場合でも、明らかに若年層から高齢者までの分布に大きな変化があります。こういった人口分布の変化が、糖尿病、脳卒中や骨粗しょう症といった医療処置が必要な人々の数が増える原因となっています。

アジアの国々では、生活様式の変化が原因とされる糖尿病が増加しています。世界保健機構は、2030年には、インドの糖尿病患者は人口の4%にあたる4000万人から8%にあたる8000万人に増加すると警告しています。ベトナムやタイでも同様の傾向にあり、ベ

トナムでは850万人、タイでは650万人という、それぞれ人口の10%にあたる人々が現在糖尿病患者といわれています。中国の糖尿病患者数は世界一となっています。すでに9200万人が糖尿病患者となっており、1億8000万人が予備軍といわれています。日本やドイツといった、高齢化社会ならびに出生率の低下が問題となっている国では、高齢者人口をどう支えていくのか、国は労働者への増税によって社会保険、健康保険制度を機能させることが将来、本当にできるのかどうか、といった時限爆弾の問題をかかえているのです。このことから、周囲の変化に着眼し、広い視点に立ち将来の義肢装具業界のあり方を考えていく必要があるように思えます。

# Prosthetics

## 2010年前半の学会展示を振り返って...

## 2010年前半の学会展示を振り返って...

装具部門からは新製品の発表を兼ねて出展した各学会の商業展示を振り返ってご報告いたします。

今年は整形外科医、リハビリテーション医、理学療法士、作業療法士、義肢装具士の方々が参加される各学会の展示会に出展し、春の新製品である『マニユ 3D ポレックス』を中心とした手関節装具シリーズや拇指 CM 関節装具シリーズのほか、昨秋発売開始をした新コンセプトの上肢懸垂用 肩関節装具『オモ ニューレクサ』を紹介してまいりました。

### ■ 整形外科医、手の外科の専門医に対して ...

第 53 回日本手の外科学会学術集会（新潟）：4/15 ～ 4/17

第 83 回日本整形外科学会学術総会（東京）：5/27 ～ 5/30

オートボック装具への認知度を向上させるために、両展示会とも幅広い手・手指関節関連の製品群の展示を行いました。整形外科学会では肩関節製品にも焦点をあて、他のメーカーには無い上肢製品群の充実ぶりをアピール致しました。



『マニユ 3D ポレックス』



日本手の外科学会学術集会展示



日本整形外科学会学術総会展示

### ■ リハビリテーション関連の医師、医療従事者に対して ...

第 47 回日本リハビリテーション医学会学術集会（鹿児島）：5/20 ～ 5/22

第 45 回日本理学療法学術大会（岐阜）：5/27 ～ 29

第 44 回日本作業療法学会（宮城）：6/11 ～ 6/13

上肢懸垂用 肩関節装具『オモ ニューレクサ』を中心に展示紹介。これまでも回復期リハビリテーション病院を中心に紹介してきた本製品は、上肢のリハビリテーションプログラムでの装具療法の可能性を新規に提案することができる画期的な製品として、徐々に採用を頂くケースが増えてまいりました。

### ■ 義肢装具士の方々にに対して ...

第 17 回日本義肢装具士協会学術大会では、『マニユ 3D ポレックス』をはじめとする手関節装具シリーズや拇指 CM 関節装具シリーズの製品を展示し、実際に試着していただきました。実際に装着される患者さんを想定されながら話が弾む場面もあり、改めて貴重なご意見を頂く機会となりました。



『オモ ニューレクサ』

学会後はご来場の御礼を兼ね、各医療従事者の方々により詳しく製品を紹介するためのフォローアップ訪問を継続的に行っています。製作所の皆様にもご協力を賜るケースもあるかと存じますので、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。尚、製品などのお問い合わせにつきましては、営業担当までお気軽にお申し付けください。

## モビリティ ソリューションズ

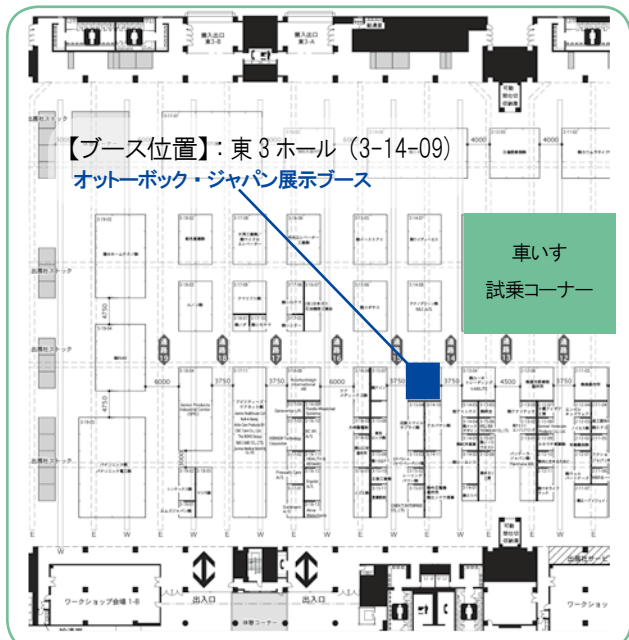
国際福祉機器展 H.C.R2010に出展！

H.C.R2010に出展 第37回老人と障害者の自立のための国際福祉機器展！  
9月29日(水)～10月1日(金) 10時～17時(東京国際展示場「ビックサイト」)

アジア最大の福祉機器展であり、福祉に関する最新の情報を得ることできるHCR（国際福祉機器展）に今年も出展します。

残存機能を引き出し、リハビリテーションの補助や自立の手助けとなる福祉用具、小児等を含めたリハビリテーションの早期介入と24時間ポスチャーマネージメントの考え方をベースとした製品などを一挙に展示し、皆様方のご来場をお待ちいたしております。

\* 24時間ポスチャーマネージメントとは？：日中だけの姿勢保持やリハビリなどによる介入だけでなく、睡眠時や夜間におけるポスチャーマネージメントも併せて行うこと。イギリスにおいてはそのための福祉機器を国の保険機構（NHS）がリサーチし、医学的観点や価格などについて詳細にまとめています。



24時間  
ポスチャー  
マネージメント

新製品も併せて展示します。